ヒロセ電機株式会社

2020 年 3月期 決算説明会 Q&A 要旨

Q1:
2020 年度上期、売上減少に対して利益の減少が少なく見えるが何故か？

A1:
上期の利益予想には、郡山水害費用の保険による補填の約 15 億円が含まれているため。

Q2:
今期の取り組み、分野別の動向に関して詳細に知りたい。

A2:
自動車向け、前年比-20%、予測以上に厳しい実態がありさらに下方することもあるかと思う。市場環境の変化をしっかり捉え対応することが大きなポイントではないかと見ている。
産機向け、今年 2 月前半までのところまでは再浮上のタイミングも見えてきていたが、仕切り直しになっているのが実態。自動車同様に新しい動きが出てくるのでキャッチングしたいと思う。
コンシューマ向け、米中貿易摩擦は懸念点だが、総じて手元では成長が期待できる。5G 関係も成長期待と思う。
打ち手としては、競争力の強化を加速させることが必要であり、いろんな変化が今まで以上に出てくる流れがあり、ここの感度を上げることに注力したいと思っている。

Q3:
外部環境の悪化により、売上高の停滞が続いている。今後、売上を再成長させていく上で追加的な施策など、新たな考えがあれば知りたい。

A3:
この場で非常に大切なことは、自分たちの目指す軸をこのコロナを経験して、さらにしっかり持つこと。そういう面で、成長戦略における変更は全くない。但し、さらに変化、対応可能スピードが速くなってくること、変化の度合いも大きくなってくる、この辺の対応で大事なことは、いろんな

変化に対し、いかに自分たちの成長の機会にできるかというところが、非常に重要。その一面では、新しいキーワードに対しての行動を展開していくのが 2020 年以降と思う。

Q4:
コロナ前は自動車向けに注力していたと思うが、その方針を若干修正する印象も受けたが正しいか。それとも既存は影響を受けるが新規は影響が少ないという見方か。

A4:
基本戦略に変更はない。自動車、産機・インフラ、コンシューマ、この 3 本柱をしっかり構築していく戦略には変わりはない。しかし自動車のところについては、市場自体が相当変わってくるはず、ここの確認とさらなる戦略の構築は必要性が出てくることもある。

Q5:
国内新工場は、中期的な内製比率の拡大を考えているのか。

A5:
国内、海外も含め新工場の動向に関して。基本的な内製比率的には大きく変えることはない。当然ながら、いろんな変化点がここから出てくる。今回の件で SCM に対する考え方等も見直しをしないといけない。その中での若干の比率の修正等はあるかと思う。

Q6:
中期資本計画を次に発表を検討される時間軸は、どうイメージしておけばいいか。

A6:
基本的な方針は変わらないが、事業環境の見通しが非常に難しい現状があり、中期資本計画の発表は少なくとも来年の 2 月、もしくは 5 月まではお待ちいただくことになるかと思う。

免責事項

本資料には、ヒロセ電機の現時点における予測に基づく記述が含まれています。

これら将来に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性その他の要因が内在しており、当社における実際の業績と異なる恐れがあります。ご承知おき下さい。